

しぐさからわかるウサギのケガと病気

よだれが多い（不正咬合）

「手がいつも濡れていておかしいなぁと思っていたら、よだれをこすっていたんです。もしかして口の中が変で、痛いんじゃないかしら」。臼歯の不正咬合を見つけてきたのはオスウサギまさる君の飼い主、Sさんです。

足をひきずる（飛節びらん）

「右の後ろ足を少しかばうので、おかしいなと思って見ていたら、足の裏の毛がなくなっていて」と連れて来たのは、ちょっと太っているラブちゃんの飼い主、Mさんです。飛節びらん（足底皮膚炎）でした。

鼻をこする（鼻炎）

「鼻ばかりこすっているから、風邪をひいたのかしら。心配で」とミミちゃんを連れてきたのはOさん親子です。鼻汁を取って調べたら、パストツレラ菌が検出されました。

おとなしい

「べつに変わったしぐさはないんだけど、朝からおとなしくて」と子ウサギを抱っこしてきたのはAさん。よく触ってみると胃停滞でおなかが張っていて、かなり危険な状態でした。

ケガや病気が考えられるのに、飼い主が見逃しがちなウサギのしぐさ

おとなしいだけと思ったら 実は熱射病 胃停滞 心臓病

おとなしいのは、いつも一緒にいる娘が旅行中で寂しいからかしら、なんて思っていると熱射病だったり、胃停滞だったり、心臓病だったりすることがあります。

便秘と思ったら 実は結石

何回もトイレに行くのにフンが出ないから便秘みたいと思っていたら、実は尿道が結石で詰まって尿を出せなくて、出そう出そうと頻繁にトイレで座っていたのでした。

ばけたと決めつけていたら 実は膀胱炎

ばけたみたいで、あっちこちでオシッコを漏らすから困っちゃう、と連れてこられたウサギは、膀胱炎でした。きちんと薬を飲ませれば治ります。歳だからと決めつけずに、定期的に尿の検査を受けておくと早く発見できます。

大きなトラブルをかかえている可能性のあるしぐさ

トイレに何回も行く 結石 膀胱炎 膀胱腫瘍(がん)

トイレに何回も行ったり、座る姿勢を何度も変えたり、トイレでずっとうずくまっているときは、結石や膀胱炎のことがあります。尿路の閉塞により尿が1滴も出ないと尿毒症になり、命にかかわります。

食べようとしてやめてしまう 臼歯の不正咬合

食べたそうにエサの所まで来るのにプイと横を向いたり、よだれが多く両手でこすって汚れていたり、歯ぎしりをするときは不正咬合のことがあります。舌や頬が傷ついて食事がとれずに、日増しに衰弱していきます。

両足をひきずる 脊椎の異常

両足をひきずってアザラシのように腰を落として歩いていたら、脊椎に異常(骨折や腫瘍)があって、神経症状が出ている可能性があります。排尿の神経まで影響を受けていると、尿路感染症や尿毒症を起こしやすくなります。

1カ所から動かない 心不全

朝と同じ姿勢だったり場所を移動していなかったりするときは、特別なしぐさがなくてもかなり重症です。いろいろな病気の末期だったり心不全のこともあります。

呼吸が洗い、鼻がヒクヒクしている 末期の症状

運動もしていないのに呼吸が早かったり、荒かったり、鼻をヒクヒクさせているときは重態です。血液の成分が異常になっていたり、肺炎、心不全、胃鼓張症、腸閉塞など、大きな病気をかかえていると考えてよいでしょう。

目がうつろ

視点が定まらなかったり、一点をぼーっと見つめていたりしているときは、目の異常というよりは大変危険な症状のことが多いです。裏に隠れている病気がありますから、目の動きにも注意しましょう。

飼い主が日常でチェックしなければいけないこと

1 元気なときのしぐさをよく見ておく

水の飲み方、エサに対する反応。そばに寄ってきて遊ぼうというそぶり。鼻でつついたりペロペロなめたりする。ぐるぐる回ったりジャンプして走る。

手足を伸ばし、あごを出してリラックスする。思いっきり伸びをする。呼ぶとすぐ反応し

て目を合わせる。

2 部分別のチェック項目

目はぱっちり：涙目、目やに、目を細めること、赤みや腫れはないか。

耳はきれい：耳の中の汚れ、匂い、赤み。耳が傾いたりしていないか。

鼻はすっきり：鼻汁、汚れ、匂いが、ないか。

口はさっぱり：よだれを付けていたり、舌をペロペロしたりしていないか。

歯はすっきり：前歯が伸びすぎていないか。歯ぎしりをしていないか。

毛並みがよい：毛が異常に抜けていたり、かゆがったりしないか。

おしりがきれい：おしりの周りの毛が汚れていないか。

皮膚がなめらか：皮膚にしこりがあると、腫瘍や化膿です。

足の裏と爪：足の裏の毛が抜けて赤くなっていたり、爪の伸び過ぎに注意。

体重：うまくコントロールできているか。急に変化していないか。

食欲と元気：一番わかりやすいことなので、いつもと違うときは動物病院へ

3 ウサギ日記をつけよう

記録になるだけでなく、よい思い出にもなります。病院へ行くときにも、とても役立ちます。

コラム

名前調査

戦前、犬は番犬、猫はネズミ捕り、ウサギは食用、そんな時代もあったけど、いまや犬一千万頭、猫700万頭、ウサギ400万頭。ペットではなくコンパニオンアニマルと呼ばれるようになりました。

私たちの病院でも、この頃ウサギの来院頭数はウナギ登り。そこで、ウサギの名前調査をしてみました。

まずベストテンの発表です。1位はミミでダントツ。2位ウーちゃん、3位ラビ、同点4位がチビとピーター、同点6位がプー、モモ、ハナ、ピョン太、チャチャ、うさ子。

ウサギの特徴をとらえ、呼びやすいミミは、小田原の先輩の病院でもやっぱりトップでした。

ウサギ、ラビットからくるウーちゃん、ウサ子、ウサ丸、ラビ、ラビ太も根強い人気。なんと先輩の病院でもウサ、ウサ子が次に並んでいました。

ついでなので色、人名、食べ物など、いくつかのカテゴリーに分類もしてみました。

犬で人気のモモ、チビ、ハナ、リリーはウサギにも共通らしく、猫で人気のクロ、トラ、シロも色別ランキングで登場しています。

一見、人の名前かと思うようなサクラ、光太郎、大介、与作、まさるもいます。トム、セザンヌ、オードリー、ベッカムという国際派も後をたちません。マンガの主人公ではキティ、ミッフィー、ジマイマもいます。

食べ物もプリン、クッキー、みかん、スモモ、トリュフ、キノコ、チョコとパフェという2匹を飼っているお宅もあります。

幸せを祈って、ラッキー、ハッピー、フクフクスケ、サチもいます。

しぐさからつけたクンクン、足を鳴らスタッピングからきたトントン、トンタ、トンスケも楽しい。

いろいろな名前がいっぱいあって、書き出していたらB4の紙がウサギの名前でぎっしり埋まりました。こうしてみると、ウサギの名前にも歴史と文化と生活とドラマが見えて、カルテの中でもここが一番楽しいスペースです。なぜなら、この少ない文字の中に、言葉や文字で表現しきれない夢や願いや思いが込められているものって、他にないんじゃないかな、と思うから。

「犬と猫の飼育頭数は不況リストラで減っているのに、ウサギって増えているんだ」と某犬猫フードメーカーのボーイフレンドがぼやく。そう言われてみればウサギのフード、近年は年齢別、アガリクス入りなどバラエティに富んできて、ウサギにとっては頼もしい限り。どんどんいろいろな名前が増えそうで楽しみです。